

新たに取り組む主な事業

- ① バスロケーションシステムの整備
- ② 貨客混載(路線バスを活用した貨物輸送)
- ③ 自転車の活用(サイクルトレイン、サイクルバス)
- ④ 路線バスの再編・効率化(奥宇陀線)
- ⑤ 域内交通の充実(天川村)

① バスロケーションシステムの整備

取組方針・目的

奈良交通と連携し、全国や近隣府県に対し大幅に遅れている県内のバスロケーションシステムの整備に早急に取り組み、地域住民や訪日外国人はじめ旅行者等のバス利用環境の向上を図る。

事業概要

- ・東京五輪までの3年間を「**集中整備期間**」と位置付け、**ソフト、ハード一体**でバスロケーションシステムの整備を進める。
- ・整備効果を県内全域に速やかに波及させるため、**奈良交通路線バスの全線**においてバスの位置情報をスマートフォン(バス検索サイト)で提供するサービスを開始するとともに、バスターミナルや主要バス停を中心に**情報表示装置の設置**や**Wi-Fi環境の整備**を進める。

事業スケジュール

- ◆サービス提供開始予定時期
 - ・**奈良市中心部** : **平成30年3月**
(近鉄奈良駅、JR奈良駅に乗り入れる164系統)
 - ・**奈良市中心部以外の地域** : **平成30年9月**

取組事項	平成29年度	平成30年度	平成31年度
システム開発・整備	■		
バス車両へのGPS車載器設置	奈良市中心部	■	
	奈良市中心部以外の地域		■
情報表示装置の整備	■	■	■

■平成29年度設置場所(15箇所)

停留所	設置主体
1 近鉄奈良駅 ①のりば	奈良交通
2 近鉄奈良駅 ⑧のりば	
3 近鉄奈良駅 ⑨のりば	
4 JR奈良駅 ②のりば	
5 JR奈良駅 ⑤のりば	
6 JR奈良駅 ⑥のりば	
7 東大寺大仏殿・国立博物館前	
8 田中町・内	
9 春日大社表参道・内	
10 奈良市庁前・東向	
11 宮跡庭園・東向	
12 薬師寺東口・北向	
13 唐招提寺東口・北向	
14 県庁前・西向	
15 東吉野「小さな道の駅」	



市町村との連携・協働

- ◆情報表示装置の設置、Wi-Fi環境の整備
バスターミナル、主要バス停、病院・教育施設・市町村庁舎等の公共施設、交通結節点、小さな拠点などにおいて、**公共(施設管理者等)が主体となった整備**を検討
(例) **東吉野村**において、「**安心して暮らせる地域公共交通確保事業**」(県1/2補助)を活用し、「**小さな道の駅**」に情報表示装置を設置(平成29年11月設置予定)
- ◆コミュニティバスへの導入
「**安心して暮らせる地域公共交通確保事業**」(同上)を活用し、**市町村が主体となった整備**を検討
(例) **葛城市**において、同事業を活用し、バスロケーションシステムを導入(平成29年1月運用開始)

② 貨客混載（路線バスを活用した貨物輸送）

取組方針・目的

路線バスの運行時の空きスペースに貨物を積載することで生産性向上を図るとともに、過疎地域等で低密度になっている貨物輸送の一部区間をバス輸送に代替することで物流事業の効率化等を図る。

実施イメージ



社会実験概要

※実施期間は、①、②ともに平成29年10月～平成30年3月を予定

① 天川地区

実施区間：洞川線

大淀バスセンター → 天川川合

参画事業者：

奈良交通 × ヤマト運輸

※午後の配達便に貨客混載を活用

※天川村エリアの配達をカバー

※「公共交通基本計画推進事業」として、

奈良県が実験実施



② 奥宇陀地区

実施区間：奥宇陀線 榛原駅 → 掛西口

参画事業者：宇陀地域公共交通活性化協議会(宇陀市・曾爾村・御杖村) × ヤマト運輸

※午後の配達便に貨客混載を活用

※曾爾村・御杖村エリアの配達をカバー

※「安心して暮らせる地域公共交通確保事業」(県10/10補助)として、宇陀地域公共交通活性化協議会が実験実施

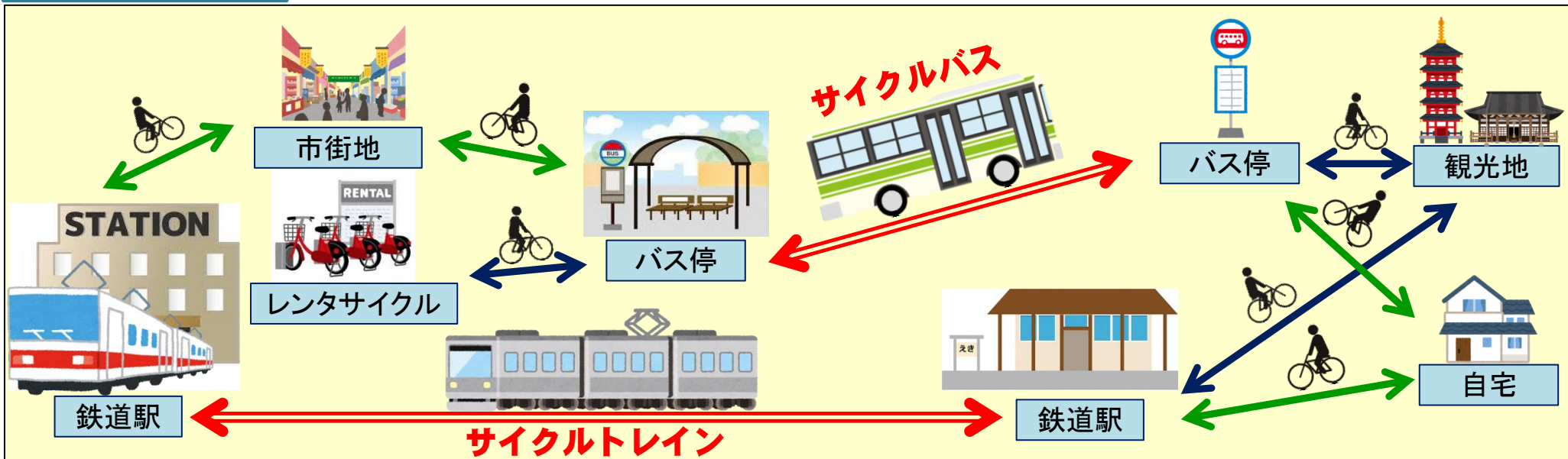


③ 自転車の活用(サイクルトレイン、サイクルバス)

取組方針・目的

鉄道、路線バスに自転車をそのまま積載して移動できるサービスを提供することにより、公共交通の利用を促進するとともに、自転車利用ネットワークを拡大し、より広域的な周遊観光の促進による観光振興や住民の行動範囲の広がりによる地域活性化を図る。

活用イメージ



社会実験概要

◆ サイクルトレイン

実施区間：JR桜井線 天理駅～
JR和歌山線 五条駅
実施日時：平成29年11月～12月の
土・日・祝日のうち1日
使用車両：団体臨時列車の運行
(2～4両編成を予定)
募集人数：40～80名



※「自転車利用促進事業」として、奈良県が実験実施

◆ サイクルバス

実施エリア：明日香地区(奈良交通飛鳥線 橿原神宮前駅東口～飛鳥駅)
実施期間：平成29年9月末～11月の
土・日・祝日(予定)
積載可能台数：2台(車内)



※「公共交通基本計画 推進事業」として、奈良県が実験実施

④ 路線バスの再編・効率化(奥宇陀線)

取組方針

運行改善策の策定を繰り返しても大幅な状況の改善に至らなかった奈良交通奥宇陀線について、本年10月より3市村(宇陀市・曾爾村・御杖村)で構成する協議会が運営主体となる連携コミュニティバスへ転換し、運行サービスの向上や利用促進、収支改善に向けた取組等を、利用者・地元地域、交通事業者等との連携・協働のもとで、主体的かつ積極的に実施することにより、抜本的な再編・効率化を図る。

経緯

【診断・改善策経緯】

- ・平成25年度
診断結果：収支率が診断基準に未達(34.1%)
改善策：一部減便、ダイヤ改正(最終便の繰り下げ)
- ・平成26年度
診断結果：収支率が診断基準に未達(34.2%)
改善策：観光モデルコースの設定による利用促進
- ・平成27年度
診断結果：収支率が診断基準に未達(36.9%)
改善策：連携コミュニティバスへの転換を検討
- ・平成28年度
診断結果：収支率が診断基準に未達(34.9%)
改善策：連携コミュニティバスへの転換、貨客混載を検討

【検討経緯】

- 平成28年 9月：宇陀地域公共交通活性化協議会設立
- 平成28年12月～平成29年3月：運行効率化に係る調査・検討
※(「**安心して暮らせる地域公共交通確保事業**」(県10/10補助)を活用)
- 平成29年 5月：連携コミュニティバスへの転換を決定
- 平成29年10月：連携コミュニティバスによる運行開始(予定)

実施事業

- ・曾爾高原への路線バス乗入れ検討
- ・路線バスのPR(路線バスを使ったモデルコースの設定)
- ・貨客混載の導入検討
- ・運行ルート・停留所位置の見直しの検討
- ・運行ダイヤの見直し
- ・上限運賃の導入の検討
- ・停留所の待合環境整備の検討
- ・切符(奥宇陀線・曾爾香落溪線で共通利用可)の販売の検討
- ・バスマップの作成・配布の検討
- ・モビリティ・マネジメントの実施
- ・既存交通資源(スクールバス等)の有効活用の検討

【奥宇陀線路線図】



⑤ 域内交通の充実(天川村)

取組方針

天川村内の路線バス2路線が当該地域の玄関口である下市口駅方面への利便性を優先したルート・ダイヤ設定となっており、域内移動が不便な状況となっていることから、地区間を直接結ぶ路線バスの実証運行を行い、域内交通の充実による幹線系統への乗り継ぎ利用者の増加と交通不便地域における移動手段の確保を図る。

背景・方針

現状

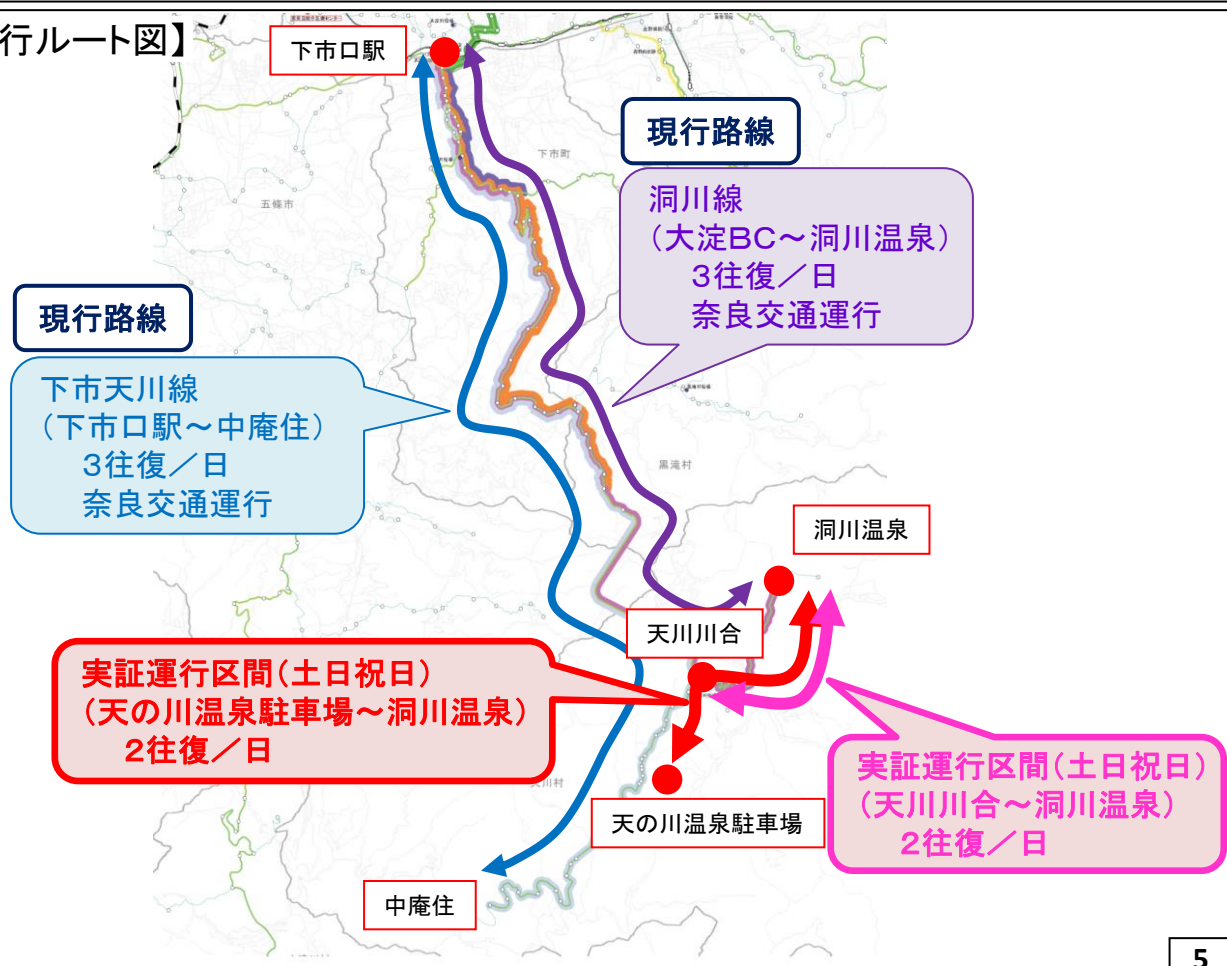
- ① 路線バスによる洞川温泉～天の川温泉の移動が困難
- ② 洞川温泉～天川川合の運行本数が少なく、需要の多い洞川温泉方面へのアクセス機会が少ない

実証運行内容／目的

- ① 路線バスによる洞川温泉～天の川温泉の移動が容易になる
- ② 洞川温泉～天川川合の運行本数が増え(4往復増加)、需要の多い洞川温泉方面へのアクセス機会が増加

住民・観光客の域内移動の利便性向上

【運行ルート図】



※「安心して暮らせる地域公共交通確保事業」(県1/3補助)を活用し、実証運行を実施